

ビニル系床材の汚染対策

ビニル系床材は、ゴム製品や染料等により汚染が生じることがあります。

この現象は、ビニル系床材がタイルであるかシートであるか、また、床材表面が透明か不透明か等により汚染の程度に差は出ますが、すべてのビニル系床材に共通します。

1) ゴム製品とテープによる汚染

椅子やワゴン等に使用されているキャップやキャスター・タイヤがゴム製品の場合、ゴム成分（プロセスオイル・老化防止剤等）が床材に染み込み、着色汚染が生じることがあります。

この汚染を除くには、普通の汚れと異なり、染み込んだ部分を除去する以外に方法がありません。防止対策として、次のいずれかの方法で事前に対処してください。

①着色汚染の生じない種類のゴム製品を使用する

②キャスターをウレタンやナイロン等の材質に変更する

③直接床材に接触しないよう、あて板等を敷き保護する

これらの対策が取れない場合は、汚染が目立ちにくい床材を選ぶ必要があります。また、養生テープを床材に貼り付けた場合、テープの粘着剤成分や配合（特に酸化防止剤）によっては、同じように着色汚染が生じることがあります。アクリル系粘着剤のもの（GPテープ等）を使用する等して防止してください。



2) ヒールマークによる汚染

靴のカカト等が強い力で床材とこすれ合い、その結果、床材に生じる汚れを一般にヒールマーク汚染と呼んでいます。

この汚染は靴底の種類により、原因と対策は次のように異なります。

原因	対策	
ゴム系 靴底の場合	靴底のゴムが摩擦により削り取られ、床材表面に付着。ゴムとビニル系床材は溶け合わないので、ゴムが床材の表面にやや強く付着している。（ブラックヒールマーク）	ポリッシャーやナイロンタワシでの洗浄で除去できる。 手軽な方法としては消しゴムでの除去も可能。
塩ビ系 靴底の場合	摩擦熱により靴底とビニル系床材とが溶け合い、一体化する現象。塩ビ含有量の少ない床材ほど生じにくく、床面が塩ビ樹脂と熱で溶け合わない床材にはこの現象は起こらない。	サンドペーパー等で一体化した部分を削り取る。樹脂ワックス（ポリッシュ等）を塗布することにより汚染の軽減は可能。

3) 染料による汚染

ビニル系床材と染料を含む物質が接触すると、染料の色素が床材中に入り込み汚染が生じます。染料使用物質は、マジックインキ、試薬、防蟻（腐）剤、毛染め剤等、数多くの種類があります。

ビニル系床材には染料に染まりやすく、問題となるものが多くあります。最近、チョークリールの粉によって床材が着色する、塩ビ配管用接着剤が垂れて付着した下地上に施工された床材が変色するという事故が発生しています。前者は、染料で着色したチョークによって生じたものであり、後者は、接着剤の色付けに配合された成分が床材裏面から表面に移行して生じたものです。いずれも染料による汚染の一種です。床材表面に付着した染料は、早めに拭き取れば汚染しにくくなりますが、放置後では汚れの除去が不可能となります。一方、下地上に残存する汚染物質は、時間の経過とともに床材表面側に徐々に移行するため、汚染物質として認識しにくいものであります。下地上に残存する汚染物質は、床施工前に除去を行わなければなりません。

ビニル系床材の汚染については、インテリアフロア工業会のホームページ上で「ビニル系床材の汚染対策」として公開されていますので、ご参照ください。

原因	対策	
防蟻剤	白アリ対策にクロルディン2%溶液を使用する。浸透性をよくするための溶剤が徐々に揮発し、着色染料が表面にじみでて床材に汚染を生じる。表面が透明なクッションフロアに発生が多い。	床材との直接の接触はないが、薬剤塗布後の乾燥が不十分な場合、汚染が生じるので、十分に乾燥させることが大切。
毛染め剤	毛染め剤中に含まれる特殊染料（アミノフェノール類）により床材が染められ褐色に変色する。	できるだけ速やかに除去する。 しかし、薄いシミとして残るので、染料と同系色の床材を使用し、目立ちにくい模様ものものを選ぶ。
マーキングペン	床下地にマーキングペンを使用すると、染料やその他の成分が床材表面まで移行して着色する。	マーキングペンを使用する場合は、（株）サクラクレパスの「ビッグマックス水性」、「固形ペンキ油性（ソリッドマーカー）」のご利用をお勧めします。